

26日より展示作業が始まった大西康明「体積の裏側」展。その制作過程をここではご紹介していきます。

さて大西さんは最初に、展示室6にこんな山のような立体を出現させようか、と現場の部屋を見ながら考えて…。



その立体を形作るためのポリエチレンシートを準備します。横幅だけで10メートルほどの大きさがあります。



そして展示ケースや段ボールなどを立体の土台となるように組み立てて、山の形に相応しい高さを出していきます。



その山に先ほどのポリエチレンシートをかければ、作品の基盤が生まれます。とは言え、まだまだ作品からは遠く…。これら土台やシートの形を微妙に調整していきながら、接着剤を使って空中にシートを固めていきます。続きは大西康明「体積の裏側」の裏側(2)で！



(F.N.)